

事務事業 No./名称	■サービス部門 鎌福-37 母子保健事業					タイムスコード及び個別事業名			
	□支援部門					106	母子保健事業		
主管課	市民健康課		関連課	こども相談課		784	母子保健事業		
分野名	健康福祉								
目標 (目標値)	母性並びに乳幼児の健康の保持								
人口等の データ	データ区分	21年度	20年度	備考					
	人口	176,669人	176,484人	・各年4月1日 (住民基本台帳)					
	世帯数	78,131世帯	77,430世帯						
運営資源 状況	決算値	127,460千円	110,017千円						
	(国・県)	23,220千円	6,268千円						
	(負担金等)	0千円	0千円						
	(一般財源)	104,240千円	103,749千円						
	人員配置数	8.2人	7.4人						
	人件費	76,059千円	69,304千円						
	協働の パートナー	医療機関	医療機関						
事務事業 運営経費	総事業費	203,519千円	179,321千円						
	市民1人当 りの経費	1,152円	1,016円						
	対象者1人 当りの経費	—	—						
ベンチマ ーク(県内外自 治体や民間 団体との比 較値)	団体名	藤沢市	平塚市	海老名市	大和市	鎌倉市			
	H20乳児家 庭訪問実施 率	47.0%	78.8%	66.0%	71.0%	83.4%	20年度	81.0%	83.4%
							21年度	84.0%	80.0%
							22年度	86.0%	
							23年度	87.0%	
						最終年度 (年度)	88.0%		
創意・工 夫・課題等 改善状況	課題・問題 点	(21年度事務事業を実施するうえでの課題・問題点は、どのようなことでしたか) ・健診等常設会場の確保ができないため、毎回、身長・体重計、診察用器具類一式、おもちゃ、絵 本、ゴザ、書類、パンフレット類を準備して運んでいる状況である。 ・保健師の欠員・育児休暇等である中、職員の確保が難しい。 ・妊産婦健診助成回数(7回から15回)や育児支援訪問をはじめとした相談・訪問等で問題解決 までに時間を要するケースが増えるなど業務量が増加している。							
	創意・工 夫・課題等 の改善点 21年度の 成果	(課題・問題点についてどのような創意工夫、改善をしましたか。また、どのような成果がありましたか) ・教室の受付等に事務補助職員を配置し、専門職による相談の充実を図った。 ・1歳6か月児健診を平成20年度から月に2回から3回にすることで受診の機会を増やし、混雑を緩和 し、個別の相談を充実することができた。							
	未解決の 課題・問題 点	(21年度事務事業の取組において対応(解決)できなかったものはどのようなことですか) ・健診等常設会場の確保。 ・欠員・育児等に対して、十分な職員確保ができない。 ・業務量増加に対する事業の見直し。							
	今後の方 針(対応・ 改善)	(上記対応できなかった課題・問題点について今後どのように対応(改善)していきますか) ・保健師等、職員の確保を確実に行う。 ・健診等業務内容を検討し、業務の効率化を図るとともに、現行体制の見直し。 ・保健センターがない中、通年で健診等が実施できる会場の安定した確保が急務であるが厳しい状 況である。							
一次評価(課長評価)					二次評価(部長評価)				
A:充実又は拡大 B:現状のまま継続 C:統合又は縮小 D:廃止又は休止 E:事業完了									
評価結果	改善の必要性	母子保健業務の見直し・検討を行 い、業務体制を見直して効率化を図 る必要がある。			評価結果	改善の必要性	取り組むべき母子保健事業や事業 体制のあり方について検討が必要 である。		
B	有				B	有			
課長名	市民健康課長 相川 誉夫				部名・部長名	健康福祉部長 石井 和子			